



防衛研究所

The National Institute for Defense Studies

転機を迎える日露安全保障協力
地域研究部米欧ロシア研究室長 兵頭 慎治

NIDS コメンタリー

第 33 号 2013 年 7 月 1 日

はじめに

2013 年 4 月 29 日に実現した 10 年ぶりの首相公式訪露により、広範囲な安全保障問題に関してハイレベルの戦略協議を行う日露外務・防衛閣僚会合（いわゆる「2 プラス 2」）の立ち上げが合意された。日露首脳会談における最大の成果であり、安全保障分野で連携するという日露関係の新たな幕開けとなった。日本は、同盟国の米国とは 1960 年から、日本を「アジアの最緊密パートナー」と呼ぶオーストラリアとは 2007 年から同会合を実施しており、米豪に次いでロシアが 3 例目となる。他方、ロシアが行う「2 プラス 2」は、米英仏伊に次いで日本が 5 カ国目となり、アジアでは最初の相手国となる。これは、日露双方がお互いを戦略的パートナーと見なし、両国関係の戦略的レベルを大きく引き上げることを意味し、中国の台頭を見据えて日露が急接近しているとの印象を第 3 国に与えることになった。

ロシアが日本を重視する理由

2010 年 11 月のメドヴェージェフ大統領（当時）による国後島訪問により、政治面の日露関係は冷戦終焉後最悪の状況に陥ったと言われたが、2011 年 9 月にプーチン首相（当時）が大統領選への出馬を表明して以降、北方領土問題の解決に含みを残しながら、ロシアは日本との安全保障協力を繰り返し求めるようになった。こうした安全保障面におけるロシアの対日重視姿勢は、今後も弱まることは想定しにくい。なぜなら、ロシアの戦略的な関心が欧州からアジアへシフトする中、対等性が大きく失われつつある中国との戦略的協調関係を有利に展開させるために、中国と距離を

置く日本や米国、ベトナムやインドなどとの戦略的連携を強めざるを得ないからである。

それどころか、2011 年 9 月にプーチンが大統領選への出馬を表明して以降、中国をけん制する姿勢も見受けられるようになった。例えば、プーチン訪中の直前にあたる同年 10 月、地対空ミサイル S-300 の技術情報を不正に入手しようとしたとして、中国国家安全省職員を前年 10 月に逮捕していた事実が明らかにされた。ロシア政府による中国人スパイ事件の公表は前例がなく、プーチン大統領の指示によるものと推察される。これ以降、ロシア政府関係者や安全保障専門家の間でも、率直な対中批判が聞かれるようになり、もはや中国批判はロシア国内で政治的タブーではなくなった。

中国の国内総生産（GDP）はロシアの 4 倍以上となり、両国の国力格差は拡大する一方である。しかも、中央アジアや北極海といったロシアの影響圏への進出や、軍事合理性を欠いた核政策など、安全保障面においてもロシアの対中懸念は拡大しつつある。2013 年 2 月に筆者が訪問したモスクワの参謀本部大学において、中国の軍事力伸長に大きな関心を有していることを軍高官は率直に認めている。

国家主席に就任した習近平が初の外遊先として 2013 年 3 月に公式訪露し、共同声明で「中露関係はかつてないほどの高水準」というフレーズが繰り返されたが、中露国境の画定が合意され、大規模な合同軍事演習が開始された 2005 年頃をピークとして中露戦略的パートナーシップは頭打ちの状態にある。中露関係は、ロシアから中国への資源や武器の供与という実利協力と、対米けん制という戦略協調という、2 つの

要因から成り立っている。資源協力に関しては、今回の中露首脳会談でも、天然ガスの輸出価格をめぐる長年の交渉はまとまらず、最新鋭戦闘機スホイ 35 などの十数年ぶりの大型武器供与も細部調整が難航している。昨年から開始された中露合同海軍演習も、演習内容や実施場所をめぐる中露間の調整がうまくいっていないものと推察されるⁱⁱ。

他方、日米に対する政治的牽制というモチベーションも、中露間の温度差は開きつつある。ロシア政府関係者によると、尖閣と北方領土問題において中国側から対日共闘を何度も呼びかけられたが、ロシアはそれに応じず、日中関係に関して今後も中立的な立場を維持するという。2013 年 5 月末、外務省系シンクタンクのロシア国際問題評議会は、起こり得る日中戦争がグローバルな経済危機を引き起こす恐れがあるとして、ロシアはあらゆる手段を尽くして日中対立を阻止すべきであるとの提言書を公表したⁱⁱⁱ。

ロシアが求める海洋安全保障協力

ロシアが制定した「第二次大戦終結の日（いわゆる対日戦勝記念日）」にあたる 2011 年 9 月 2 日に、オホーツク海を舞台とした冷戦終焉後初となる大規模な軍事演習が開始された。この演習直後の 11 月に実施された外相会談で、ラヴロフ外相は「この軍事演習は日本を刺激する意図はなく、誤解を生まないためにも防衛当局間の緊密な関係を構築したい」と述べて、日本との防衛交流の強化を提案した。その後、2012 年 9 月の首脳会談では、アジア・太平洋地域の戦略環境の変化を踏まえて、北極海などの「海をめぐる協力」を具体化する方針が確認されたほか、10 月にはプーチン最側近のパトルシェフ安全保障会議書記が来日し、日本の外務省とロシア安保会議事務局との関係強化に関する覚書に署名した。

ロシアは、日本を安全保障上の自立したプレーヤーと見なしていないため、ロシアが日本に安保協力を求める背景には、将来的に米国を交えた 3 カ国協力を発展させたいとの狙いがある。日米露 3 カ国が相互に「2 プラス 2」のメカニズムを保有することにより、ロシアが希望する三極戦略対話の道も開かれることとなった。朝鮮半島や中国といった北東アジアの安全保障

に関しても、3 カ国の戦略環境認識や安全保障上の利害は近接する方向にあり、日本としてもロシアと戦略対話を進めることは有益である。

ロシアが求める海洋安全保障協力は、当然のことながら、米国にも向けられている。ロシアの安全保障専門家によると、ロシアは中国の海洋進出が将来的に北方にも広がりを見せていくと認識しており、これが日米との海洋安保協力を求めるロシア側の誘因となっている^{iv}。ロシアとしては、将来的な日米露 3 カ国による軍事演習の実現を目指しており、2012 年には米海軍がハワイ沖で主催する環太平洋合同演習（リムパック）に初めて参加したほか、海上自衛隊とロシア太平洋艦隊が日本海で実施する捜索・救助共同訓練を、将来的にはオホーツク海や北極海方面に拡大することも想定している^v。

G8 サミット時の本年 6 月 17 日に開かれた日露首脳会談において、プーチン大統領は、5 月 15 日に承認された北極評議会（AC）への日本のオブザーバー入りをロシアが支持したことを明らかにした上で、5 月 29 日に公表されたオホーツク海北部の日露共同資源開発を評価する旨述べた^{vi}。中国砕氷船によるオホーツク海を経由した北極進出が常態化する中^{vii}、北極海およびオホーツク海への日本の関与をロシア側が期待している表れとも言えよう。こうした新たな動きが、今後の北方領土交渉に影響を与える可能性も排除しえない。

おわりに

平和条約がなく、領土問題を抱えるロシアとの安全保障協力には、自ずと限界がある。1999 年以降、日露間の防衛交流は進展しているものの、2013 年 2 月の領空侵犯や北方領土の軍近代化などの懸念事項も残されており、冷戦時代から続く安全保障上の不信感も払拭されていない。しかし、従来の経済・資源協力に加えて、安保協力という新境地が開拓され、日露関係の裾野が拡大する意義は大きい。領土交渉を進める上でも、交渉の土俵が広がるとともに、新たなレバレッジの誕生も期待される。ただし、現時点では、日露間の安全保障協力は政治的思惑が先行しており、実質的な軍事協力が実現するまでには多くの課題も残されて

いる。我が国としては、中国ファクターも見据えながら、軍事面において日露間の安全保障協力の実効性をどこまで高めていくべきか、本格的な議論を開始すべき時期を迎えたと言えるだろう。

(2013年6月21日脱稿)

- i 2013年6月17日に実施されたG8サミット時の米露首脳会談において、中断されていた米露間の「2プラス2」の再開が合意された。
- ii 詳しくは、拙稿「中露蜜月は見せかけ：対日関係を強化したいプーチン」WEDGE Infinity <<http://wedge.ismedia.jp/articles/-/2748>>。
- iii 「北東アジアにおける戦争：ありうべきシナリオ」ロシア国際問題評議会、2013年5月28日 <http://russiancouncil.ru/inner/?id_4=1880#top>20

13年6月3日アクセス。

iv 詳しくは、防衛研究所編『東アジア戦略概観 2013』261頁

<<http://www.nids.go.jp/publication/east-asian/pdf/eastasian2013/j08.pdf>>。

v 産経新聞インターネット版

<<http://sankei.jp.msn.com/politics/news/130425/plc13042512480014-n1.htm>>。

vi 外務省「日露首脳会談（概要）」2013年6月17日 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/page4_000097.html>。

vii 詳しくは、防衛研究所編『東アジア戦略概観 2013』257～260頁

<<http://www.nids.go.jp/publication/east-asian/pdf/eastasian2013/j08.pdf>>。

プロフィール

profile



地域研究部
米欧ロシア研究室長
兵頭 慎治

専門分野：ロシア地域研究(政治、外交、安全保障)、国際関係論

本欄における見解は、防衛研究所を代表するものではありません。

NIDS コメンタリーに関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。

ただし記事の無断転載・複製はお断りします。

防衛研究所企画部企画調整課

直 通：03-3713-5912

代 表：03-5721-7005（内線 6584, 6258）

FAX：03-3713-6149

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>